



熊本県学校事務研究協議会
発行人 会長 上田 千浩
編集代表 研究部長 平野 哲也

～目次～

- 開会行事
- 研究部提案
- 講演
- 分科会記録

大会テーマ：変革の時代に対応する学校事務の創造
—子どもの豊かな育ちを支援する学校事務—

期日：平成31年1月11日(金)

会場：くまもと森都心プラザ、ANA クラウンプラザホテル熊本

平成31年1月11日(金)くまもと森都心プラザにて、第43回熊本県学校事務研究大会を開催しました。

大会には、約400名という熊本県学校事務研究協議会(以下 熊事研)会員の皆様だけでなく他県からの参加も数多くあり、皆様のご協力の下、大会テーマに沿った研究大会を無事終えることができました。会員の皆様をはじめ、他県からの参加者の皆様、ありがとうございました。

開会行事

- | | | |
|-------|-----------------------|---------|
| ・開会宣言 | 熊事研副会長 | 塚本 千佳 |
| ・開会挨拶 | 熊事研会長 | 上田 千浩 |
| ・来賓祝辞 | 熊本市教育長 | 遠藤 洋路 様 |
| | 熊本県市町村教育委員会連絡協議会長 | 笠 久美子 様 |
| 来 賓 | 熊本県教育庁教育総務局学校人事課 審議員 | 船津 紀明 様 |
| | 熊本市教育委員会教育次長 | 橋爪富二雄 様 |
| | 熊本県市町村教育委員会連絡協議会長 | 笠 久美子 様 |
| | 熊本県小中学校長会会長 | 永光 英俊 様 |
| | 熊本県立教育センター主幹兼総務課長 | 村上 寛人 様 |
| | 熊本市教育センター所長 | 長尾 秀樹 様 |
| | 熊本県PTA 連合会会長 | 村崎 一英 様 |
| | 熊本県公立学校事務職員協会副会長 | 松田 庸信 様 |
| | 公益財団法人日本教育公務員弘済会熊本支部長 | 坂井 賢二 様 |
| ・閉会宣言 | 熊事研副会長 | 塚本 千佳 |



平成30年2月の「熊本版グランドデザイン」提案から半年後の9月に、現状を把握するためのアンケートを実施しました。結果を受けて、意識改革を行動変革へと繋ぐためには、まず意識変革チェックシートにより学校教育目標を意識し、学校の課題解決を自らの戦略として取り組むことの提案、さらに、学校事務職員が主体的・積極的に校務運営に関わることが求められている今、企画委員会に参加し、組織と協働し、組織運営を担い、ミドルリーダー・リーダーとして行動変革を起こしていく必要性を提案しました。



〈平野研究部長と研究部員の伊賀上〉

講演「チームとしての学校を実現する事務職員の役割」 ～意識変革から行動変革へ～

講師 国立大学法人愛知教育大学教育学部教育支援専門職養成課程
教育ガバナンスコース 准教授 風岡 治 氏

「中教審の働き方改革特別部会の最終答申がこれからホームページに掲載の
ので見てみてください」という部会のメンバーであられる先生の言葉から始まり
ました。

最初に愛知教育大学に昨年度より設置された3つの教育支援専門職養成課程
の中の先生が教鞭をとっておられる、教育ガバナンスコースの学習内容のお
話がありました。教育行政職員・学校事務職員を養成していくコースなので、
これからの教育のなかで私たちの役割や身につけるべき能力のヒントとなる
ような内容でした。

次に、学習指導要領の改訂や働き方改革に伴う事務職員の役割について

「現在の小中学校では、新学習指導要領の着実な実施と学校における働き方改革の2つを、どう
考えていくかが課題になっている。そのなかで学校事務職員の法改正がなされて職務を明確化し
ていく。共同学校事務室によって効率化を図り校長のマネジメントを支えるような人材になっ
ていくことが必要になっていく。また、カリキュラムマネジメントのなかでは学校の弱い部分で
ある。子どもたちの姿や地域の現状に関する調査やデータに基づいてのPDCAをまわしてい
く時に、事務職員にIRを含めて学校評価を何かしらのエビデンスを示して、説明できるとい
うことが求められてくる。それと教育内容と教育活動に必要な人的物的資源等を外部の資源を
活用しながら効果的に組み合わせることで、財務と教育課程の関連ということをどう考えてい
くのが必要になってくる。働き方改革のなかでは、役割が期待されている今だからこそ、仕事
の意義、学校に対する貢献度などさまざまな仕事の質の変化が必要になってくる。企画提案、
問題解決型の事務職員を目指していくべきであるし、意志決定ができる質・能力を身につ
けていくことが必要である。」とご示唆いただきました。

最後に「意識が変わると行動が変わる。さらに習慣が変わる。習慣が変われば変革が
実現する。意識改革よりも先に行動改革をおこす。意識と行動は必ずセットで考
えていけばいいと思う。そのために意識を変えるための行動をどうしていくのか、
それと同時に意識も変わってくる。意識が変われば習慣が変わる。習慣が
変わったときに変革が実現する。ということができてくれればいいと思う」と
締めくくられました。



第1分科会 定型職員（ルーティーンワーカー） 「仕事に役立つワークネットづくり～同期と同期する～」 ファシリテーター 宇城市中央公民館 館長 三角 幸三 氏

宇城市中央公民館館長の三角幸三先生を講師としてお招きし、経験年数1～3年目を対象とした、周囲の人と円滑にコミュニケーションを図る方法や仕事に役立つワークネットづくりを学びました。

始めに「これから学校事務職員として仕事を行っていくには、ワークするための機能するネット（人間関係）づくりが大切になってくる。」とお話がありました。ワークネットづくりをするにあたってのキーワードをパワーポイントで提示され、時折、三角先生ご自身の経験談を交えながらキーワードの説明をされました。

パワーポイントでの説明が終わると、ワークネットづくりに向けてのプログラムに移りました。今回は①実は私はゲーム②カウントダウン in the ゲーム③宝探しゲーム④紙コップ積み立てゲーム⑤ハグゲーム⑥鯛焼きゲーム、を行いました。班で協力し与えられたミッションをクリアするものや、会場内全員で協力し一つのミッションをクリアするものなどプログラムの中身も多種多様でした。参加者の皆さんも笑顔で積極的に、時には真剣に意見を出し合いながらプログラムに参加されている様子が見受けられました。

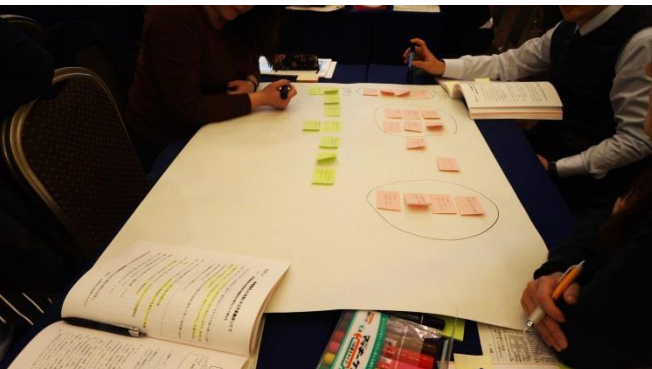
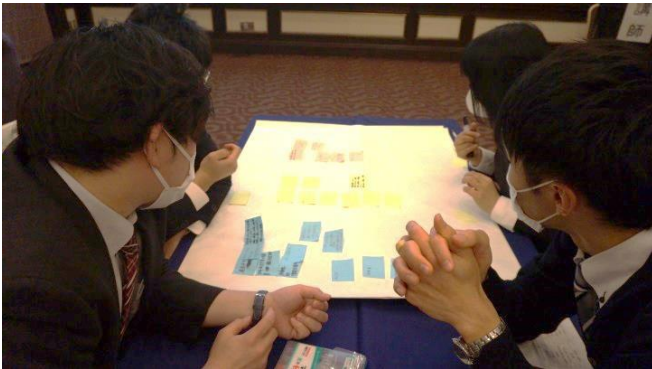
最後に「学校事務職員は学校の中でマネージャーである。学校職員の意見を組み、解釈をして自分の意見も組み込む。これからは学校事務職員として上にも下にも対応できるリーダーシップを発揮してほしい。」と結ばれました。始めは緊張した面持ちで席に座っていた参加者の皆さんも段々と笑顔が見られるようになり、最後には会場全体が活気に満ちた雰囲気となっていました。皆さんがプログラムへ活発に参加されていたため、熱気で室内が暑くなり廊下側のドアが全開だった第1分科会でした。



第2分科会 調整職員（コーディネーター） 「サブリーダーとしての学校事務職員の 企画力・調整力コミュニケーション力の育成」 講師 国立大学法人岐阜大学教職大学院教育学研究科 特任教授 足立 慎一 氏

経験年数4～10年目を対象にした第二分科会です。前半は、講師から別冊のレジメに沿って、世の中が大きく変わっていくなかで学校事務職員が成長していくためには「主体的で自ら考え判断できる場（つながりの場）を作っていかなければならない。」と21世紀型の学習理論（人は他者とコミュニケーションをすることで学ぶ社会的構成主義）を基に説明がありました。また、「つかさどる」をリーダーシップ（他者のモチベーション、知識、実践等に影響を与える行為）と捉え、学校事務職員のリーダーシップは、学校事務職員集団や教員集団を振返りや支援を促して、やる気を起こすことである。ということや、見えているものではなく、見えていないものに目を向けていく「冰山理論」の話がありました。

後半はグループ協議が行われました。あるケース（研究集録 P56）について3つの設問があり、グループ毎にその回答を模造紙に貼り付け、グループ内で発表していきましました。教育活動と学校予算をリンクさせる方法や教員集団に学校予算への関心の高め方等を前半の講演内容と設問に対する回答を照らし合わせ、講師から質問や助言がありました。またコミュニティ・スクールに対しても、「学校事務職員として何ができるか、理想と現実とは異なるが昨日できなかったことが他者とつながり、明日できるようになっていくことを心のどこかにもって励んで欲しい。」と締めくくられ会は終了しました。



分科会報告

第3分科会 企画職員（デザイナー） 統括職員（アドミニストレーター）

「組織のリーダー（ミドルリーダー）としての意識変革と行動変革」 ～ 統括職員（企画職員）として求められるマネジメント～

講師 国立大学法人愛知教育大学教育学部教育支援専門職養成課程
教育ガバナンスコース 准教授 風岡 治 氏

最初に風岡先生からマネジメントとは何か、リーダーとはどういうものか、リーダーシップの在り方についてのお話がありました。保護者や地域のニーズに対応して、学校に期待されていることを、コミュニケーションやコラボレーションを中心にして、人と人とのかわりあいのなかで行っていくマネジメントや決められた職員、限られた予算の中で社会適応していくためのマネジメントが学校マネジメントではないか。リーダーとして共同学校事務室をマネジメントしていかなければならない。リーダー・サブリーダー・構成員がそれぞれ主体性をもって行動していくためには、リーダーとしての責任を持ち、仕組みを整えていくことを考えていかなければならないということを踏まえて、ワークショップに移りました。

ワークシートに①3年後のビジョン・目標・あるべき姿、わくわく感をもってリーダーとして3年後共同実施でやっていきたいこと②現状③目標と現状のギャップ（できない理由）を記入していく時間が設けられました。参加者全員が集中して静かな会場の雰囲気の中、5～6人のグループで情報共有を行って、ワークシートをさらに詳しいものにしていくという作業をやっていきました。さらに書画カメラを使って、3グループのワークシートを映し出しての説明・発表を聞いて、④現状における持っている資源⑤目標達成のための意思・行動計画を同じような流れで行い、理想に近づくためには何が必要かを考えました。具体的な目標・行動計画をイメージされている共同学校事務室（事務センター、共同実施）があり、参加者それぞれがしっかり考えることができ、他の参加者から刺激を受けた分科会になりました。

地域・学校課題の解決に向けて、共同実施がすべきことは？
あなたは、組織のリーダーとして、共同実施をどう機能させますか。

ワークシート

<p>共同実施 3年後のあるべき姿</p>	<p>目標・あるべき姿（共同実施で行う連携・業務改善） 共同実施で何をしたいか</p>	
<p>※目標と現状のギャップ 何が課題で出来ないのか</p>	<p>意思/行動計画（意思の確認と行動計画）</p>	<p>リーダーシップ（どのような働きかけが必要か）</p>
	<p>現状（現在の状況）</p>	<p>資源（持っている資源・強みは）</p>
<p>現状</p>		



参加者感想

〈アンケートより一部抜粋〉

○グランドデザインを事務室に貼っていますが、帰ってもう一度確認したいと思いました。与えられた仕事だけコツコツするだけでなく、自分から発信し、学校運営に携わっていく必要があると考えさせられました。(熊本市 20代)

○時代の変化に柔軟に対応しながら自分の能力を発揮できるよう努力していきたいという思いが高まる研修であった。(人球 30代)

○課題解決に向けて考えることができた。日頃はあまり何も考えずに日々の仕事に追われているので、今回の分科会で自分の仕事を見つめ直したいへん充実した時間になった。(荒玉 40代)

○難しいと感じたが少人数で話し合うことでいろいろアイデアが浮かんできた。(宇城 50代)

○グランドデザインとチェックシートも見なかったです。できれば講師の方のスライドも全部集録に載せてほしい。メモがとりきれなくて残念でした。(岡山県 40代～)

※アンケートに講演の資料等が小さく見づらかったという声がありましたので、研究部の「研究基調」資料とあわせて後日、熊事研のホームページに掲載予定です。

来年度の大会（予定）

◎2019年度熊本県学校事務研究大会並びに総会

期日：2019年6月14日（金） 会場：くまもと森都心プラザ プラザホール

◎第44回熊本県学校事務研究大会

期日：2020年1月24日（金） 会場：くまもと森都心プラザ プラザホール

〈最後に〉

今大会も、たくさんの当日役員の方々には運営のお手伝いをいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。また、参加者の皆様方にも、ご理解ご協力いただき無事大会を終えることが出来ました。

参加者の皆様のこれからの学校事務職員生活にますます花が咲きますようお祈りいたします。また来年の研究大会でお目にかかりましょう。



<http://ws.higo.ed.jp/jimuken/>

過去の熊事研会報はHPにあります。

今すぐクリック！

〈森都心プラザ5F ホワイエにて 受付の様子〉

